



期間 令和8年 5月30日(土) ~ 7月18日(土) [全5回]

実施場所 生涯学習総合センター
〒803-0811 小倉北区大門1-6-43 (27ページアクセス参照)

申込・問合せ先 生涯学習総合センター
〒803-0811 小倉北区大門1-6-43
TEL:571-2735 FAX:571-0943

時間 14:00~16:00

応募締切

5月10日(日)

スマートフォンからも
お申込みできます▶



定員 30名

受講料 2,000円

受講生への
メッセージ

コーディネーター：聞き書きボランティア「平野塾」 渡辺 いづみ

これまで、市民カレッジ「新・平和学習」講座を3年継続させていただき、受講生の中には主体的かつ継続的な学習を求め、新たな提案や様々なサポートをしてくださる方々も現れました。この学びの好循環を活かし、今年度は受講生が提案する講座を優先して、未だ知らない側面から戦争をとらえ、改めて平和のカタチを考えていく企画となりました。

昨今、ますます優先度の高まってきている分野であるからこそ、世代間・イデオロギーの垣根を越えて、どなたもが学んでいただける幅広い内容になっております。どうぞ多くの皆様の参加をお待ちしております。

渡辺 いづみ

2008年より市民センターの長。2013年、平野市民センターに着任した後、八幡大空襲を聞き書きで記録する活動を開始。これまで、戦争体験の記録を残す市民グループの立ち上げ後、毎年恒例となった「8・8 八幡大空襲」と「門司の戦災・水害被害者の慰霊祭」の実行委員を務める。

回数	月日	テーマ・内容	担当講師
1	5/30 (土)	記憶の表象(カタチ)：継承とは何か？ ひとの記憶は、表象(カタチ)にならなければ、みなで共有することはできない。 どのようなカタチにできるのか？多様な表現(アート)の可能性を通して、記憶の継承を考える。	平和のまちミュージアム 館長 重信 幸彦 平和のまちミュージアム 学芸員 水谷 桃子 九州産業大学 芸術学部4年 奥村 春夏
2	6/6 (土)	「未だ終わらない」沖縄戦の実態を知る 戦争のトラウマ(PTSD)という傷を抱える人々に寄り添うということ。	沖縄戦・精神保健研究会 会長 富山 富士子 元保健師・元沖縄県立看護大学教授。
3	6/20 (土)	北九州の戦時下・戦後復興を写真で振り返る 当時の報道写真とその裏側やメディアの役割の変化について考える。	FM「Air Station Hibiki」 パーソナリティー 松田 幸三 元毎日新聞記者。1979年、毎日新聞入社。「北九州市戦後70年の物語」他執筆、出版にも携わる。
4	7/4 (土)	「歴史に刻む」市民運動の行方 1942年に起きた「長生炭鉱水没事故」による犠牲者への追悼と記憶をめぐる実践。	九州共立大学 教授 大和 裕美子 2014年、九州大学大学院比較社会文化学府博士課程修了。博士(比較社会文化)。
5	7/18 (土)	いま、改めて考えたい市民でつくる平和のカタチ 学びをアクションに変えるプラットフォームについて考える。	北九州戦争を次世代に伝えていく会 代表 樺島 由彬 聞き書きボランティア「平野塾」 渡辺 いづみ

「あの日」を「明日」へつなぐ平和学習
アート、メディア、メンタルヘルス、そして市民がつくる平和のカタチ

スポット受講
詳細は2ページ
料金
1,000円/回
何回でも可